

みなさんお元気ですか。

2017年1月の当道場での様子をお便りします。ご覧くださいます。



1月22日、また合気道幹部による朝食会を行った。1月29日に、畳と台車がJICAから供与されることになったので、その供与式の準備について朝食をとりながら、相談したい、といつもながら前日になって連絡があった。実は、道場には畳がないので、私は畳と畳を運ぶ台車の購入をJICAに現地業務費として、申請していた。その決済がめでたく通った。私はJICAが提供してくれる機材をこちらの人が感謝して大切に使うと願って、そして生徒の思い出としても残る何かをしたかった。今回の畳の提供は、こちらの生徒も大変喜んでくれた。ある生徒は、長年の夢がかったような気分だ。過去にも畳がJICAか、日本大使館か、から寄贈されたいが、結局は、当道場の物にはならず苦慮したらしい。私は、幹部自らが計画して、供与式を盛り上げたいとしていることがとてもうれしかった。



1月28日、ニカラグア日本友好公園の小ホールにマットを敷いた。JICAに現地業務費の申請をして、決済がとおりマットを購入することができた。全部で49枚を購入し、納戸にマットを運ぶための台車も購入した。合計で、約1300ドルをJICAが経費として供与してくれた。昨年10月からこの小ホールで新道場として、稽古を開始した。しかし、マットを購入する予算が当道場にはなかった。以前いた道場では、月謝を30ドル取っていたが、施設使用料をして、大学に収めていたために、道場独自で購入することができなかった。また、マットはニカラグアの店では販売されていないと生徒のほとんどが言っていた。そこで、別の道場で、マットを購入した生徒に聞いたところ、米国のアマゾンで購入したとのこと。早速、Webで調べた。確かに生徒が言うマットはあった。しかし、ニカラグアに輸入する方法が見つからない。



別の生徒に、米国からニカラグアまでの荷物運搬業者を紹介してもらった。2社の業者に運搬費用の見積を依頼した。2社ともに電話でもメールでも依頼したが、最初の返事は良かったが、その後は一切連絡なしだ。これが、ニカラグア人のビジネスかと思った。口ではいい返事をしているが、実際は何の調査も行動もしていないのだと感じた。しかし、ニカラグアで中古のマットが手に入ったことは、うれしかった。いつまで畳なしでの稽古を続けなければならないかと思うと、また生徒を集められないと思うと少し憂鬱だった。ホールに敷いたマットは中古なので、少し汚れていた。販売者は、きれいに掃除しておきます、と言っていたが、思ったとおりで、きれいにされてなかった。そこで、SNS メッセージャー (Whatsapp ) で生徒に呼び掛けた。明日は、供与式がある。その前に、マットをみんなできれいにしよう。明日、午前 10 時に道場に来てほしい、と。果たして何人くるだろうか。



1 月 29 日、日曜日。JICA から供与された畳 (マット) と台車の供与式を行った。午前中、畳の掃除に 6 名ほど来てくれた。マットもきれいになった。集まってきてくれた生徒を見て、マットが入った道場を本当に喜んでいてくれるんだ、と実感した。道場の幹部は、大先生の写真を印刷し、正面に飾った。別の幹部は、来賓に出すクッキーを買って用意した。また、別の幹部は、日本の国旗を持ってきた。私は、「供与式」などの書き物を会場に貼った。小ホールは、式典会場らしくなった。午後 2 時から供与式を開催した。JICA の所長と当道場の道場長が調印した。これで、当道場が所有する畳となった。これは初めてのことらしい。司会者の式次第で始まり、開会の辞、所長の挨拶、道場長の挨拶、集合写真、閉会の辞。そして、所長にお茶とお菓子を出して、稽古を 30 分ほど見学して頂いた。



いままでも JICA は、ニカラグアに資金提供やその他のインフラ事業整備などを支援している。ニカラグアの人たちは、日本の支援活動をどのように受け止めているのだろうか。感謝してくれるのだろうか、それとも当たりまえと考えているのだろうか。ニカラグア人の口から「ありがとう」という言葉はあまり聞かない。店で買い物してもレストランで食事しても店員のほうから「グラシアス」という言葉をあまり聞かない。本当に不愛想だ。私は、JICA から提供された資金は、日本人の一人一人の税金からきているのだ。日本人個人は決して大金持ちではない。米国のような大富豪が寄付するようなお金とは違うんだという事を知って欲しい。そして、いつまでも大事に使ってほしい。10年ほど前にも日本から畳が寄贈されたらいいが、現在誰一人として、正確にその所在を把握しているものはいない。この供与式は、単なる儀式ではないことを理解してほしいと、節に願っている。まずは、私の活動目標の1つが終わった。ホッとしました。これからは、どのようにして、生徒を増やしていくかだ。

